

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 港湾空港局

基本計画	柱	アジアのなかで成長する
	大項目	アジアの巨大都市と連携・競争できる広域連携の推進
	取組みの方針	都市のにぎわいにつながる広域的な連携の推進

担当局 / 総務担当課名	港湾空港局	総務経営課
連絡先	3 2 1 - 5 9 1 1	

21年度計画

-3-(2)-

施策名 北部九州地域の空港の連携

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市の発展のためには、国際交流基盤である空港の機能強化が必要であり、北部九州地域にある空港の連携を強化するため、北九州空港へのアクセスの充実を図ります。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	都市のにぎわいにつながる広域的な連携の推進

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度	目標値	
	年度	21			年度	22
アクセス鉄道の事業採算性の検討	年度	21	計画	-	年度	22
北九州空港の機能を十分に発揮させるためには、空港利用者の利便性を向上させることが重要となることから、アクセス鉄道整備の検討を行います。	現状値	3ルートのうち、2ルートを検討	実績	-	目標値	検討の取りまとめ
			達成度	%		
	年度		計画		年度	
	現状値		実績		目標値	
			達成度	%		
	年度		計画		年度	
	現状値		実績		目標値	
			達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	16,775 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
			うち一般財源	16,775 千円	7,800 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	B	現在、アクセス鉄道の事業実施の可能性を判断する事業採算性についての調査を行っています。事業の重要性や事業規模(事業に要する期間)を考慮し、検討は現段階から慎重かつ幅広い視点で行っておく必要があります。アクセス鉄道には3ルートが提案されていますが、今年度は在来線下曽根ルートにおける事業採算性の向上について検討を行い、2ルートについて事業採算性の検討が終了しました。
今後の局施策の方向性	残りの1ルートについても同様の調査を行い、3案についての総合的な評価のとりまとめを行ったうえで、アクセス鉄道事業の課題を整理する予定です。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

担当局の評価に対する意見(財政局・企画文化局)

適切な評価
 下記のとおり

北部九州地域の空港の連携のための方策の一つとして、アクセス鉄道の検討が必要であることを市民にわかりやすく示す必要があります。

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

施策名 北部九州地域の空港の連携

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
北九州空港アクセス鉄道基本調査			16,775 千円	7,800 千円	特別経費(重点)			ウ
事業費のうち一般財源			16,775 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	16,775 千円	7,800 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	16,775 千円	

局施策の 21年度評価
B

【局施策評価】
 A: 大変良い状況にある
 B: 概ね良い状況にある
 C: 概ね良い状況とまでは言えない
 D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	港湾空港局	空港企画室
連絡先	582-2308	

基本計画	柱	アジアのなかで成長する
	大項目	アジアの巨大都市と連携・競争できる広域連携の推進
	取組みの方針	都市のにぎわいにつながる広域的な連携の推進
	主要施策	北部九州地域の空港の連携

関連計画	
事業期間	
経費区分	特別経費(重点)

-3-(2)-

事業名	北九州空港アクセス鉄道基本調査					
-----	-----------------	--	--	--	--	--

事業の概要	何(誰)をどのよう状態にしたいのか。	北九州空港の機能を十分に発揮させるためには、空港利用者の利便性を向上させることが重要となることから、定時性、高速度性に優れ、かつ環境への負荷の少ないアクセス鉄道整備の検討を行います。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	北部九州地域の空港の連携	成果	アクセス鉄道の事業採算性の検討	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由
		当初計画	在来線下曽根ルートにおける事業採算性向上の検討	・高規格新門司ルートにおける事業採算性向上の検討 ・検討の取りまとめ			
現状	在来線下曽根ルートにおける事業採算性向上の検討を実施						
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標
	アクセス鉄道の事業採算性の検討					計画	年度
	北九州空港の機能を十分に発揮させるためには、空港利用者の利便性を向上させることが重要となることから、アクセス鉄道整備の検討を行います。					実績	内容
						達成度	年度
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	7,800 千円
						うち一般財源	7,800 千円
単年度計画							

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 在来線下曽根ルートにおける事業採算性の向上について検討を行いました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	2	本調査は、鉄道の導入を検討するには不可欠です。しかし本調査は、アクセス鉄道事業の可能性を検討するものです。このため、本調査によって施策の実現に直接結びつくものではありません。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	鉄道という専門性の非常に高い内容のため、豊富な実績のある者に委託して調査を行いました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	事業の重要性や事業規模(事業に要する期間)から、検討は現段階から慎重かつ幅広い視点で行っていただく必要があります。しかし(現在の北九州空港の航空旅客では)鉄道事業の採算性が確保できないことから、将来に向けての課題と考えています。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	アクセス鉄道は、空港にとって将来的に不可欠な社会基盤であることから、その検討は市が主体的に行う必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	アクセス鉄道には3ルートが提案されており、既に2ルートの事業採算性の検討が終了しています。残りの1ルートについても同様なレベルの調査を行い、3案についての総合的な評価のとりまとめを行ったうえで、アクセス鉄道事業の課題を整理する予定です。